

中学校の運動部活動は、こんなふうに行われています！

～平成20年度中学校運動部活動アンケート結果から～

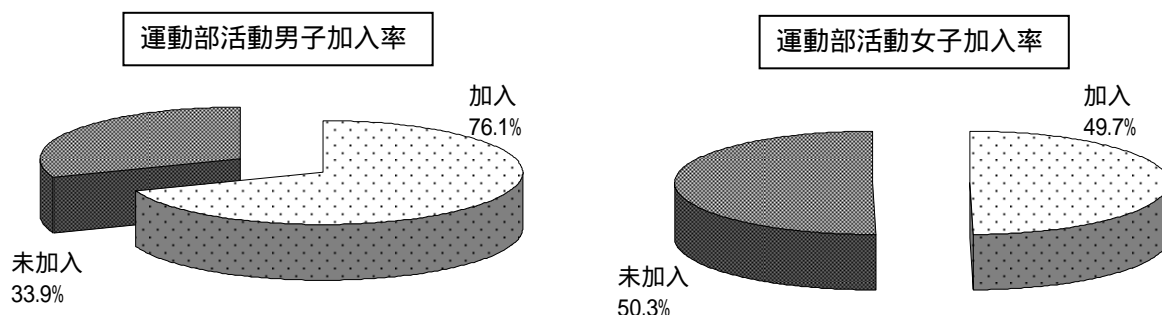
長野県教育委員会事務局スポーツ課



調査時期 平成20年6月～7月
対象学校 県内公立中学校193校
調査方法 質問紙法

1 どのくらいの中学生が運動部活動で活動しているの？

39,867名〔男子 24,570名 女子 15,297名〕が活動しています。これは県下の中学生の63.2%に当たります。男女別の加入率は男子が76.1%、女子が49.7%になります。この値は19年度とほぼ変わりありませんが、ここ数年、加入率の低下傾向が続いています。



2 複数の入部は認められるの？

複数の入部は、認めていない学校が多く76.7%になります。冬季スポーツ(スキー・スケート)との複数入部や大会参加のために暫定的に複数入部を認めている学校もあります。

3 仮入部はみんなあるの？

仮入部は、約97%の学校で実施し、実際に活動を体験した上で、正式に入部することになっています。実施していない学校は、小規模の学校で、わずかな部数しかない学校がほとんどです。

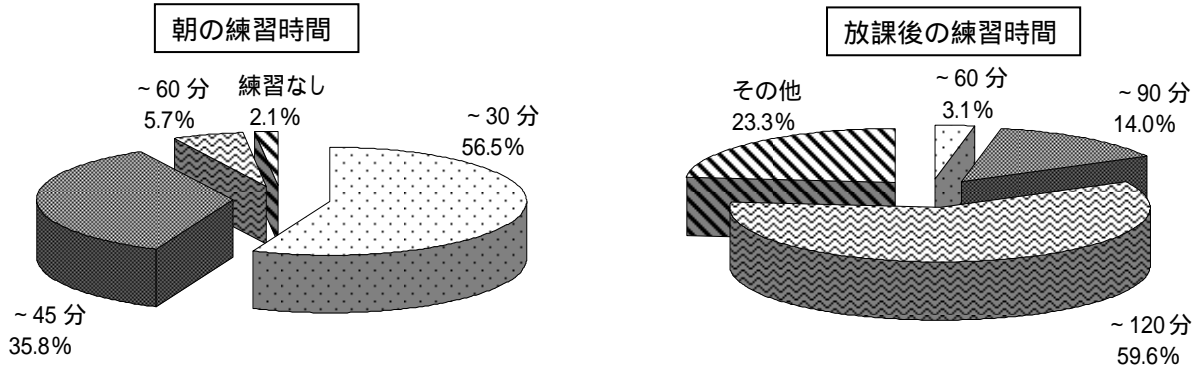
4 活動計画は誰が立案しているの？

顧問の先生が立案している学校が28.0%、生徒の意見を聞きながら共に立案している学校が29.5%あります。

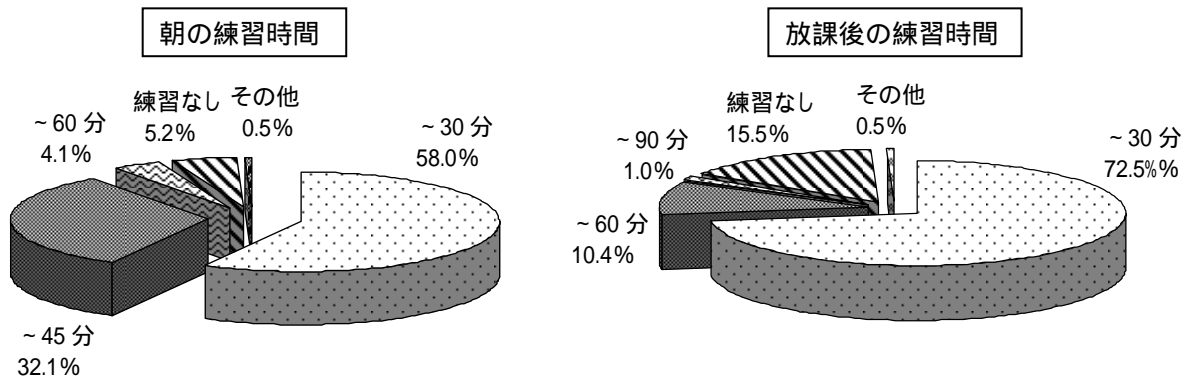
5 どのくらい練習しているの？

放課後の練習時間を、シーズン中とシーズンオフで切り替えている学校が多くあります。1年を通じて朝の練習を実施していない学校は4校あります。

【シーズン中・・・中体連の本大会が盛んな主に一学期】



【シーズンオフ・・・中体連の新人大会のある二学期から冬の練習】



6 大会前の練習時間は、どうしているの？

大会前(1ヶ月前~2週間前が多い)は、各学校とも子どもたちが十分に練習できるよう配慮しています。多く見られる工夫として、

- 時間の延長を認める
- 学校一斉の休息日も練習可能とする
- 土曜日・日曜日も練習可能とする
- 大会前を45分授業とする
- 5時間授業を設定する

などがあります。

これらの活動は、生徒の健康面や帰宅時の安全面(下校時刻の厳守など)を十分考慮し、学校長の許可を得て、全職員の共通理解のもとに進められています。また、保護者へも通知し、活動への理解を得て進めています。



7 休日(放課後 ノー部活デー)の実態は？

休日を一齐に設けている学校は78.2%あり、一齐ではないが各部ごとに休日を設けている学校は4.1%ありました。約82%の学校で休日を設定していることになります。

休日は、月曜日・水曜日が多くなっています。

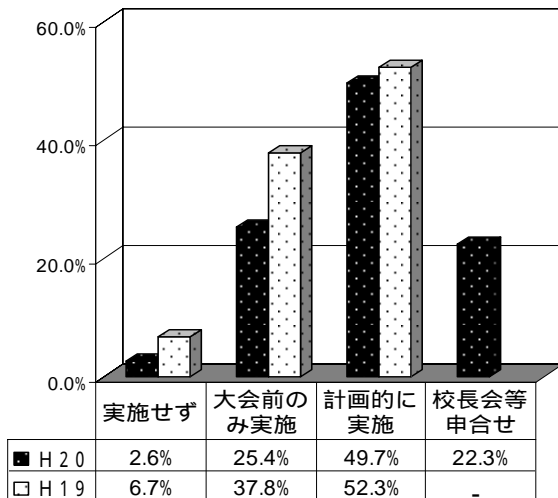
8 週休日等の部活動は？

土曜日・日曜日については、年間を通じて計画的に実施をしている学校と大会前のみ実施を認めている学校が多数を占めています。また、郡市校長会等の申し合わせ事項がつけられている地域においては、その範囲内で活動が行われていることがわかります。ここ数年は、年間を通じて計画的に実施する学校が増えてきています。

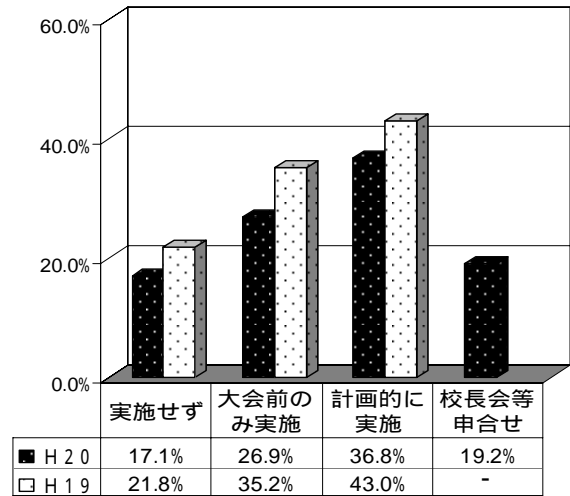
また、土曜日、又は、日曜日のどちらか一日を休みにする、実施しても半日のみとするという学校が多く見られます。

なお、実施にあたっては、保護者へ通知をして理解を求めたり、地域の行事や家庭の時間を優先したりするなどの配慮が見られます。

【土曜日】



【日曜日】



9 保護者への理解は？

保護者と懇談会を実施している部がある学校 約99%

部活動参観を実施している部がある学校 約87%

部活動通信を出している部がある学校 約88%

学校一齐に部活動に関する懇談会を実施している学校は91.2%あり、活動に対する理解が得られるよう取り組んでいます。

また、多くの学校で「学級・学年だより」「PTA新聞」等により、保護者へ活動の紹介・連絡等が行われています。

地域の方と部活動に関する懇談会を実施している学校は約35%あります。

(16年度 26% 17年度 28% 18年度 29% 19年度 32%)

10 合同部活動は必要？

少子化による部員数の減少などにより、大会に出場できない部や継続できない状況にある部を抱えている学校があります。このため、合同部活動が、今後、必要と考えている学校も113校(約59%)あります。20年度は12校・14の部で合同部活動が実施される予定です。

【部員不足のため19年度大会に出場できなかった部】

5部(18年度 6部)

【20年度から廃部等になった部】

21部(19年度 21部)

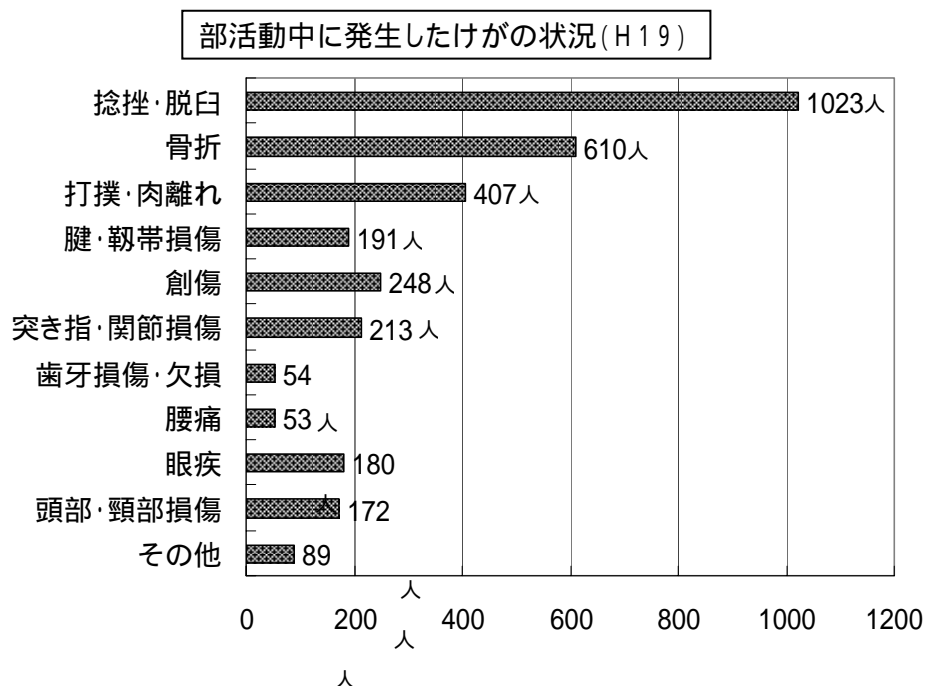
【近隣校との合同部活動の必要性】

今後必要である 58.5%



11 部活動中に多いケガは？

ケガの発生率は、全運動部員数の約8.1%(19年度 約8.2%)でした。



件数は19年度スポーツ振興センターへ申請されたもの

12 顧問の先生は専門家？

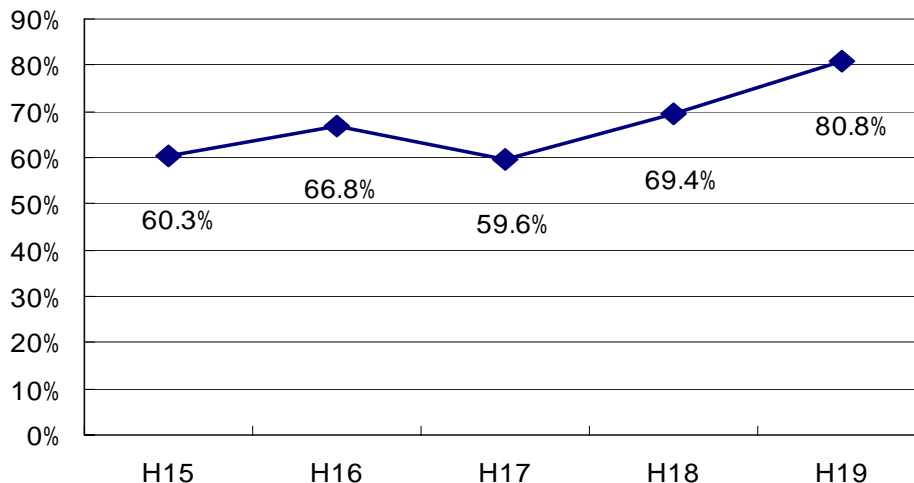
運動部の指導に携わっている顧問の先生は、2,731人います。そのうち運動経験がなかったり自分の専門外の種目を指導したりしている顧問の先生は、約61%

(1,667人)います。

13 外部指導者の活用は？

19年度は156校(約81%)で719人の外部指導者が活用されました。外部指導者の活用は、着実に増えています。(18年度は134校(約69%)で706人が活用)

過去5年間の外部指導者を活用している学校の割合



14 スポーツ活動運営委員会の設置は？

地域・学校・家庭がともに力を合わせ、生涯学習としてのスポーツ活動を子どもたちに保障するため、県教委が中学校への設置を推進している「スポーツ活動運営委員会」は、H20.6月現在、117校に設置され、徐々に増えています。組織のメンバーには、校長、教頭、部活動主任などの学校関係者のほか、市町村教育委員会、保護者、外部指導者、体育指導委員、体育協会役員、民生委員、体育協会、公民館主事、スポーツ少年団の代表等々、多くの地域の方々にもご参加いただいております。

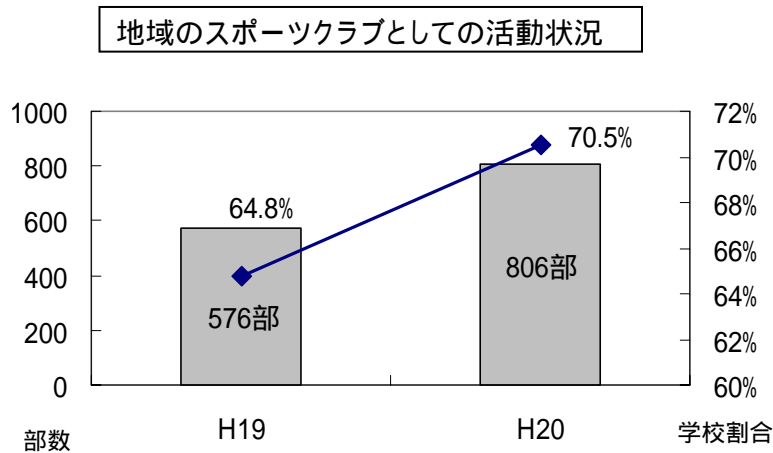
15 総合型地域スポーツクラブと部活動の関係は？

現在、総合型地域スポーツクラブが近くに存在する中学校は32校あり、そのうち13校で部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が図られています。また、近くで立ち上げが進められている中学校は24校あり、総合型地域スポーツクラブとのより良い関係を探っていこうとしています。

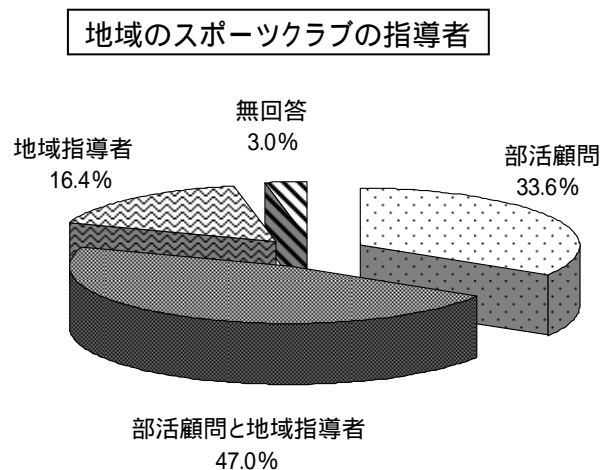
16 学校の運動部活動以外でも活動しているところは？

(1) 運動部活動終了後や日曜・祝日などに、地域のスポーツクラブ(社会体育)として活動している運動部は、806部(136校・70.5%)あります。

(19年度 576部 125校 約65%の学校)



(2) 運動部の顧問の先生だけに指導されている部は33.6%、顧問と地域の指導者に指導されている部は47.0%、地域の指導者だけに指導されている部は16.4%あります。



考 察

< 運動部活動参加者数 >

- ・平成10年度は男子生徒の約79.1%、女子生徒の約53.9%が運動部活動に加入していたが、20年度は男子生徒が76.1%、女子生徒が49.7%となり、女子生徒ははじめて50%を切った。
- ・19年度、大会に出場できなかった部が5部、20年度、廃部や統合した部が21部ある。

今年度、女子生徒の運動部活動の加入率が、はじめて50%を切った。部活動を行う生徒数の減少は、全体の生徒数の減少とともに、運動部活動離れによるところも大きい。生徒数の減少や加入率の減少とともに部活動数も減少していく傾向にあるが、生徒にとって魅力ある運動部活動にしていくためには、興味関心に応じてスポーツを選択できる状況を保障する必要がある。

< 外部指導者の活用 >

- ・19年度、外部指導者を活用した学校は、18年度に比べて22校、約11%の増加となった。人数では、716名で、13名の増加となった。

自分の専門外の種目を指導している顧問、または、運動経験がない顧問が全体の約61%に上る状況の中で、より、生徒の希望をかなえる部活動とするため、外部指導者の力を借りる学校が増えてきているようである。

< 地域のスポーツクラブでの活動等 >

- ・19年度、シーズン中、放課後の練習時間で最も多かったのは2時間以上で、全体の約52%であった。20年度は2時間で全体の約59%となった。
- ・20年度、地域のスポーツクラブとして活動しているクラブは806部であった。19年度と比較して約140%の伸びを示した。
- ・スポーツ活動運営委員会を設置している学校は117校あり、昨年度より54校・約186%の増加となった。

運動部活動と地域のスポーツ活動の連携が図られるケースが増えてきている。運動部活動が抱える様々な課題の解決に向けて、スポーツ活動運営委員会、またはそれに代わる会を立ち上げ、より適切な運動部活動のあり方を模索する動きも活発になりつつある。

平日の部活動の練習時間が短くなる一方で、地域のスポーツクラブの立ち上げが進み、活動の場が保障されるようになってきている。今後さらに、生徒の健康面に対する配慮をしていく必要がある。

県教育委員会としては、立ち上げ段階はもちろんのこと、立ち上がったスポーツ活動運営委員会に対しても、積極的に支援を行っていきたいと考えている。